

# サポート通信



## 特別支援教育センター校からの情報発信ネットワーク

発行者 広島市立広島特別支援学校地域支援部 広島市南区出島4丁目1-1 TEL 代表 (082) 250-7101

### 情報

## 広島県公立高等学校入学者選抜における特別措置

### 必要な支援を 次のステージにつなげよう

今年度、広島県教育委員会から広島県公立高等学校入学者選抜における特別措置について示されました。疾病又は障害等のため、入学者選抜を受検する際に特別措置を希望する場合は、申請に基づき受検者個々の状況に応じて特別措置が実施されます。特別措置として検討する内容例の一部としては、ルビを振り拡大した検査用紙の使用、代筆による解答、問題文の読み上げ、ICT等支援機器の使用などが示されています。詳しくは、広島県教育委員会 Web ページを御確認ください。➡



【一人一人に合った学び方が選べるように】

スマホをかざしてみてください！

今後、一人1台端末を使っでの学習が始まります。端末を学習用具の一つとして、一人一人の学び方に合わせてカスタマイズして使えるようにする発想が必要です。自分だけ端末を使うことに抵抗のあった子どもたちにとっては学びやすい環境になるわけですが、使い方を一律に限定せず、個々の学び方に合った使い方を認め合える土壌づくりこそがますます大切になってくると考えます。

読み上げを聞く

読みやすく調整する

一人一人に合わせて  
学習用具を  
カスタマイズ!!

考えたことを  
入力する

板書の画像を  
拡大して  
手本にする

板書の画像を学習記録にする

## 令和3年度広島市中学校教科書 教科書における配慮が充実

令和3年4月より新しくなる中学校教科書では、一人一人の生徒の学びを支える配慮が充実しています。現時点で分かっている情報をお知らせします。(デジタル教科書は広島教販にて1ライセンスから購入可能。)

中学校教科	教科書会社	ルビが付けられる 本文データ	学習者用デジタル教科書にある機能
国語	光村図書出版	指導書付属 (PDF)	総ルビ表示、音声読み上げ
美術		データはない	デジタル教科書としての販売はない
社会	東京書籍	指導書付属 (PDF)	総ルビ、分かち書き、機械音声読み上げ
地図	帝国書院	地名はルビ付き	「みんなの地図帳」という特別支援教育コンテンツを収録
数学	学校図書	データはない	総ルビ表示、機械音声読み上げ
理科	新興出版社啓林館	指導書付属 (Word)	総ルビ表示、音声読み上げ
音楽	教育芸術社	データはない	総ルビ表示、音声読み上げ
保健体育	大修館書店	データはない	総ルビ表示、音声読み上げ
技術・家庭	開隆堂出版	データはない	総ルビ表示、音声読み上げ
英語	教育出版	データはない	総ルビ表示 (日本語のみ)、分かち書き、音声読み上げ
道徳	日本文教出版	指導書付属	総ルビ表示、音声読み上げ

# 取組1

## 小学部2年生 遊びの指導 みんな大好き『リズム』

### 楽しく表現し、多様な動きとしなやかな体をつくる

本校の小学部では、遊びの指導の中に「リズム」という授業を設定しています。「リトミック」と称されることもあります。音楽に合わせて子どもたちがいろいろな動きを展開していく活動です。音楽や動くことが好きな子どもたちは「リズム」の時間が大好きです。「リズム」には、子どもたちを引きつける魅力とともに子どもたちの成長を支える多様な力があると実感しています。それは、音楽に合わせて表現することで生まれる力、集団の中で行うことで生まれる力などです。

表1は、小学部2年生（単一学級）のリズムの活動内容です。音楽に合わせて表現することの楽しさ、誇らしさがよく表れているのは、『とんぼ』のリズムです。最後に足を上げてポーズをとる姿から、子どもたちの自信に満ちた表情を見ることが出来ます。『忍者のはやと・おそと』のリズムでは、走り回ることによって終始していた子どもたちが、周りの友達の動きを感じて、「歩く」と「走る」ことの違いを表現し始めます。そして、近くの教師の動きを手本にして、大きく手を振ってしのび歩きをする姿に成長していきます。集団の中で、人に合わせ、人に憧れる力の育ちを感じます。



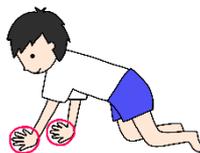
また、リズムの一つ一つの表現の中には、大切な体の動きが含まれており、自分の体を自由に動かすことのできる体の土台作りができるのもリズムの魅力の一つです。しかし、この力を引き出すには、指導者がリズムの動き一つ一つのポイントを理解し、適切な手本の提示や支援を行うことが必要になります。

年度当初には、リズムの動きについての教員研修会を行い、授業前後には指導者間で動きの細かいチェック項目の確認と評価を行うようにしています。『電車に乗って』というリズムは、曲に合わせて、最初はワニ（腹ばい）になり、次にカバ（よつばい）になり、最後に象（高ばい）になるという動きの

順	リズムタイトル	動き(※チェックポイント)
1	バルーン	バルーン揺らしの下に仰向けに寝る
2	さんぽ	歩く(後ろ歩き含む) ※踵に体重を乗せてまっすぐ下がる
3	うさぎ	両手を耳に立てて跳ねる ※手をしっかり伸ばして耳に当てる
4	ブラブラパッ	両手を胸の前で揺らして伸ばす
5	とんぼ	両手を広げて走り(速度の変化あり)、最後に足をあげてポーズ ※足は胸を張って後ろにまっすぐ引く
6	どんぐりころころ	両手を上に上げて横転 ※両手を上に挙げて回転する
7	自転車	横になり両足を上げて足を回転
8	電車に乗って	腹ばい→よつばい→高ばいと姿勢変化 ※本文掲載
9	忍者のはやと・おそと	歩く、走る、ゆっくり歩く(忍び歩き)を歌詞の合図で変化
10	ぐるぐる洗濯機	2人以上で輪になって回る
11	いもむしごろごろ	肩を持ってつながり歩き(歌詞に合わせてジャンプ箇所あり)
12	輪っかになった	全員で手をつないで歩く
13	手をつなごう	全員で手をつないで歩く(歌詞に合わせて前後に動いてジャンプあり)
14	星に願いを	静かに寝る
15	ミッキーマウスマーチ	歩く(好きな友達と手をつないで)

表1 小学部2年生単一学級のリズムの内容とチェックポイント

年度当初には、リズムの動きについての教員研修会を行い、授業前後には指導者間で動きの細かいチェック項目の確認と評価を行うようにしています。『電車に乗って』というリズムは、曲に合わせて、最初はワニ（腹ばい）になり、次にカバ（よつばい）になり、最後に象（高ばい）になるという動きの



変化があります。音楽に合わせた姿勢変化をタイミングよく表現できると素敵ですが、腹ばいでは「つま先で蹴る」、よつばいでは「手の指を開いてしっかり床につける」、高ばいでは「顔を上げる」ことなどを併せてチェックするようにしています。ポイントを意識していれば、腹ばいが進まないときに、腕の支援だけでなく、足の裏に手を当てて膝を曲げて蹴るように促す支援が可能になります。

活動の導入時の「ワンポイントレッスン」では、リズムの一つをピックアップして教師や友達の魅力的な手本を披露し、子どもに改めて動きのポイントを意識付けます。年間を通した継続的な取組を行うことで、子どもたちの体は確実にしなやかに変化しています。体が自然に動いてしまうような音楽と動きを選ぶこと、意欲をかりたてる魅力的な手本を提示すること、そして、安全にのびのびと動き回れる空間と楽しく自由な雰囲気を保証することなどを大切にしながらこれからもリズムの取組を進めていきたいと考えています。

## 取組2

# 中学部2年生 体育

## 「もっとやってみたい！」を引き出すボールを使った運動

中学部2年生でのボールを使った運動の取組を紹介します。ボールを使った運動は、ボールと自分の身体の両方をコントロールする身体能力が必要です。ボールの適度な反発力を利用してボールを扱うことによって意識が集中し、運動への意欲も高まります。まずは、生徒の実態に合った易しい動きから始めることで、分かりやすく、楽しく行うことができる活動の場にします。

### 1人でできる運動



1. はじめに、基本的な動きでボールの感触に慣れます。上に投げてキャッチする、投げてキャッチするまでに手をたたき、片手、両手でドリブルをするなど。座った状態からスタートし、慣れてきたら立って行うことも良いです。ボールの大きさや硬さは、生徒の好みや実態に合わせて選びます。



- ② 体の周りを回します。見えない部分でどうボールを扱うのか、考えながら体を動かすことができます。また、長座になり、より遠くにボールを回していくことで、柔軟性も高めることができます。



- ③ 輪の中に立って、片足をボールに乗せて、10秒間程度動かないようにする。左右交互に、足の裏でボールにタッチする。体幹の筋力やバランス力、集中力の向上や、左右の協調性が高められます。

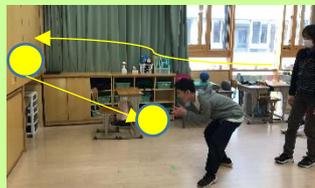
☆ 友達と競い合うことで意欲も高まり、足を置く位置や目線など、どうすればより長く持続できるか考えながら取り組む姿も見られました。

### 2人でできる運動



- ① ボール1つでキャッチボールをします。座った状態で転がすことから始め、転がしながらしりとりや好きなものの名前を言うなど、レベルアップしていきます。考えながらボールを投げることで、二つの動作を同時に行うトレーニングにもなります。

- ② ボールを2つにして、2人で一斉に転がします。自分のペースで転がすとパスはつながりませんが、「せーの」と声を出し合うことや、コースを決めることなど、友達とのコミュニケーションが大切です。



- ③ 壁に向かって立ち、壁に当たったボールをキャッチします。どこにボールが跳んでくるのか推測する力や集中力、瞬発力、姿勢を保持する力のトレーニングになります。生徒の実態に応じてボールの大きさや、距離を変更します。

2人組の運動では、自分だけのペースでパスしたり、ボールをうまくコントロールできず、途中でぶつかったりして最初はうまく続きませんでした。投げるコースを指定することなど、コツをつかむことでパスが続くようになりました。同じ運動を続けるうちに、生徒から「今度は〇回やってみよう！」「もっとスピードアップしよう！」「〇〇君とやってみたい。」などの欲求が出始めました。そこで、作業療法士とも相談して動きに変化を入れ、ペアをチェンジしたり、人数を増やしたりするなど動きが多様に工夫できる場を設定しました。すると、いろいろな友達とのかかわりが生まれ、楽しく活動できました。多様な動きをつくるボール運動では、教師にとっては、意図的に基本的な動きを身に付けることをねらいとしますが、生徒にとっては、夢中になって運動することを楽しむうちに、様々な動きが身に付いてきていると感じています。

みなさんの学級に「運動がうまくできない」「道具をうまく使えない」などの不器用さがある子はいませんか？また、そのような不器用さがある子どもの「うまくできないこと」に対し、繰り返し練習をしても、なかなかうまくいかないという経験はありませんか？

画一的な対応方法でうまくいかないのは、「うまくできない」ことの要因には様々なタイプがあるからなのです。本書では、これらの要因を「①両手がうまく使えない」「②感覚の未発達」「③力のコントロールが苦手」「④ものをみる力が弱い」「⑤身体イメージがとらえにくい」の5つに分けて説明しています。



<p><b>両手がうまく使えない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>茶碗を上手く支えられない</li> <li>はさみて紙を切るときに上手に持てない など</li> </ul>	<p><b>感覚の未発達</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大きな音を怖がる</li> <li>ベタベタしたものが手につくのを嫌がる など</li> </ul>	<p><b>力のコントロールが苦手</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>おもちゃを力まかせに壊す</li> <li>豆腐をそっとつまんだりする動作が苦手 など</li> </ul>	<p><b>ものをみる力が弱い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読みとばしをしてしまう</li> <li>キャッチボールがうまくできない など</li> </ul>	<p><b>身体イメージがとらえにくい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鉛筆などを扱うことが苦手</li> <li>体操やダンス、手遊びなどが苦手 など</li> </ul>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

また、それぞれの要因ごとに発達を促していくための具体的なサポート方法を知ることができます。食事（スプーン・箸の扱い方など）・着替え・排泄などの日常生活場面から、書く・読むなどの学習場面に関すること、走る・ボールの扱い・水泳など運動に関することなど多様な場面における具体的なサポート方法を知ることができるので、幅広い学級の子どもたちに対応できる一冊になっています。

<p>箸</p>	<p><b>両手がうまく使えない</b> 場合には… 中指と薬指はお碗の底、親指は縁の近くで安定して支えられる大きさの器を用意し、机の上に置いて支えるところから練習を行う。</p>
	<p><b>感覚の未発達</b> が見られる場合には… 箸は非常に複雑な動きを要するので、目隠しされた状態で子どもの指に一本ずつ触れ、どの指が当てるなどの遊びを取り入れ、指一本ずつの感覚を育てる。</p>
	<p><b>力のコントロールが苦手</b> な場合には… やわらすぎるものはスプーンにして、つまんでも崩れないものやかたいものは箸で食べるようにする。</p>
	<p><b>ものをみる力が弱い</b> 場合には… 食べ物と器の色が異なるようにし、食べ物は器に対して少量ずつのせるようにする。</p>
	<p><b>身体イメージがとらえにくい</b> 場合には… 箸をどのように持っていいかわからない場合が多いので、まずは一本の箸で刺して食べることから始めるようにする。</p>

このような不器用さは、生活に困難をきたしたり、身辺自立の発達を停滞させたりするだけでなく、自尊感情の発達にも影響を及ぼすこととなります。子どもが自信をなくす前に、早期から個々の子どものタイプを把握し、その子どもにあったサポートを提供していくことが大切です。子どもに合った方法で生活への意欲とのバランスを考えながら取り組むことで、子どもが「できる」ことをたくさん体験し、自信を付けていけるようにしたいですね。

編集  
後記

今号は、本校における「表現や体づくり」の取組や体の各部を使った動作へのアプローチについての書籍を取り上げました。困難さの背景を探ること、子どもが取り組みやすいことからスタートすること、そして子どもが楽しみながら課題をクリアして意欲や自信をもてるようにすることが取組のポイントだと感じました。今後も子どもたちの「分かった！」「できた！」という達成感や自信につながるための新しい情報をお届けします！